

しのばず自然観察会より 2025-5 2025.04.30

2025年5月の活動 不忍池 定点観察 5月18日(日)



集合:午前10時 不忍池 蓮池南西端
(野外ステージ西側、湯島天神下交差点
寄り)緑の小旗あり
今回は雨天中止
持物:筆記用具、双眼鏡、飲み物、雨具
(マスク、敷物、昼食、日傘)
解散は午後1時頃ボート池畔の予定
参加費不要 非会員の参加も歓迎

2025年6月の活動 不忍池 定点観察 6月1日(日)

集合:午前10時 不忍池 蓮池南西端 今回は雨天中止
(野外ステージ西側、湯島天神下交差点寄り)緑の小旗あり
持物:筆記用具、双眼鏡、飲み物、雨具 (マスク、敷物、昼食、日傘)
解散は午後1時頃ボート池畔の予定
参加費不要 非会員の参加も歓迎

5月、6月は、不忍池の蓮池や動物園池がハスの葉で覆われる直前の季節です。水鳥の観察も、これ以降は冬までお預けとなりそうです。

5月15日に例年通り上野の彰義隊墓所で墓前法要があるため、観察会代表の小川潔が事前の墓所点検のため日曜日に用事が入ります。そのため5月の活動日は15日を過ぎてからにいただきました。また6月の活動日は、梅雨入り前の6月1日になりました。

2025年4月の活動その2 4月13日(日)谷中霊園ニリンソウ観察会は、雨天のため、中止しました。

しのばず自然観察会 事務局 〒110-0001 台東区谷中3-1-9 小川潔 方
1975年創立 電話 03-3828-8775 URL:<http://sinobazu.extrem.ne.jp>
郵便振替 00100-8-84609 しのばず自然観察会 年会費 2,000円

※2024年以前の会費未納の方もお忘れなく! 退会の場合は早めに葉書で事務局へ※

2025 年 4 月の活動 不忍池定点観察より

4 月 6 日(日)は天気予報では昼前から小雨、午後から本降り。重苦しい気持ちでとにかく集合場所へ。電話で連絡があった初参加の I さんや Sa さんも見え、ほっとしました。いつものようにゆっくりと歩きだすと、11 時くらいにぱらぱらと小雨。少し先を急いで弁天堂横の藤棚下へ逃げ込み、とにかくミーティング。来月以降の活動予定日を決め、解散と言っていたら雨は一向に降り出さず、結局いつも通りにボート池西畔のテラスのあたりまで歩いてしまいました。

確認した野鳥:ドバト、スズメ、ヒヨドリ、ムクドリ、オナガ、ハシブトガラス、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、カイツブリ、ユリカモメ、オナガガモ、カルガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、
開花植物:オオイヌノフグリ、コゴメインヌノフグリ、ノゲシ、ホトケノザ、ハルジオン、カタバミ、外来種カタバミ、ナツナ、サクラの品種、スノーフレイク、キュウリグサ、ノボロギク、ヒメオドリコソウ、カラスノエンドウ、ヘビイチゴ、タネツケバナの仲間? カジイチゴ、シャガ

2025 年 4 月の谷中霊園ニリンソウの状況 小川 潔

4 月 13 日が雨で観察会が中止になったので、17 日にニリンソウを見に行きました。ぽかぽか陽気で 13 日の花冷えがうそのようでした。2 区画あるニリンソウの生育地ですが、毎年草刈りがされるほうは、ニリンソウの葉が密生したようになっていて、心配したアズマネザサによる被陰は気になりませんでした。それでも、10 年前ころに比べ、花の密度は格段に低く、最盛期には早いのか、花茎は 45 本くらいでした。もう一方の区画は、1 月に除草をした部分はニリンソウの葉が密生していましたが、やはり花はまばら、昨年までのコバンソウやアズマネザサによる被陰で栄養が蓄えられなかった影響かと思われます。区画斜面の中央部は草に覆われ、ニ



ニリンソウ

リンソウはほとんど目につきません。斜面上部にはチラホラ花が見えました。それらを合わせて花茎は 40 本。昨年は霊園管理所が気をまわしすぎて草刈りを控えめにしたようですが、今年こそ初夏と秋の草刈りを徹底してもらわなければ。

帰りの霊園内で、シロバナタンポポの花を見つけ、ちょっと得をした気持ちになりました。



シロバナタンポポ



スミレ

2025 年 4 月 6 日の観察会から 小川千恵子

曇り一時雨

9:30 目の前、ボート池の上空をユリカモメが飛ぶ。水面にいるのはホシハジロの雄 2 羽。キンクロハジロ雄 3 羽の内の 1 羽は白い腹を上に向けて、せっせと羽づくろい。白色が上を向いているので別の鳥に見えてしまう。

浮き橋方向へ。キンクロハジロ雌 4 羽、雄 9 羽。オオバン 1 羽が水面に浮く桜の花びらをつつきながら進む。

ホトケノザ、オオイヌノフグリ。丈が30cm以上に伸びたハルジオン。白い花のコゴメイヌノフグリをハンノキの下に見つける。去年はボート池西側の南の方にだけ見られたのに。(あとで西側一帯に広がったことを知る。)すごい繁殖力。タンポポ 1 輪咲く。

浮き橋から見ると、オオバンが 1 羽水面に、もう 1 羽が筏の上に。ホシハジロ雄が筏の上に 2 羽、ひっくり返したボートの上に 2 羽。カワウも 1 羽筏の上に。水が多い！

ユリカモメはゴマ塩頭や、ほぼ黒頭になったのが少しいる。見ると 36 羽以上いて、くいに止ったり、ひっくり返したボートの上にいる。そばの樹上からカラスの大きな声が聞こえる。東の遠くの方から呼応するようにカラスの音がする。何度か鳴きかわす。

風が強い。桜は満開で、風にあおられて花びらが少し飛ぶ。ハンノキの南の地面にドバトが 26 羽。その中にユリカモメ 1 羽が坐り込んでいる。通りかかった人が気づく。

茶色の小さな葉が樹上から降り落ちる。椎の木？常緑樹の衣替え？

ムクドリ 1 羽が地面から飛び立つ。タンポポ 17 花。通路の西側のオオシマザクラが満開。オナガの鳴き声がオオシマザクラの西の樹上から聞こえる。

タチアオイは70~80cmに伸び、固い蕾が見える。

ボート池南端、オオバン 2 羽が水面の桜の花びらをつつきながら泳ぐ。ユリカモメ 3 羽がひっくり返したボートの上にいる。

ホトケノザ。蓮池の方を見ると、水面中央にダイサギがいる。

集合地

タンポポ、スノーフレイクが咲く。野外音楽堂方向に歩き出す。オオバン、ユリカモメ。カイツブリの高らかな鳴き声が響く。今日初参加のIさん「集合地で 2 羽見ましたよ」と。

音楽堂の北にダイサギが茶色の枯蓮の棒状の葉柄群の中に見える。

タンポポ、黄色い花のノボロギク、黄色い花のカタバミ。タンポポは「花の頂をさわっても花粉が付かないのでたぶん 4 倍体の雑種」と潔が言う。黄色い花のハルノノゲシ(?)、オニタビラコ、白い花のキューリグサ、ピンクのヒメオドリコソウ、ハコベの類。



ノボロギク

浮き橋の上に行くと、黄色、ピンク、水色が混じったピカピカ光る素材の桜の花の形の風ぐるまが、ストローのような軸に支えられて、3段になって、橋の東西の手すりの両側にびっしりと立っている。日の出町から参加のTaさんが「鳥よけ？私の方ではコーラのプラスチックビンで作った風ぐるまを畑にぶら下げているよ」と。鳥獣保護区指定のこの地で鳥よけの風ぐるまか、すごいブラックジョーク！そういえば風ぐるまの素材のピカピカした感じは田んぼに張られた鳥よけテープそっくり。既に風ぐるまの何個かは失われているので、また池のゴミになった？水の中の生き物達よ、まちがって食べないで！

浮き橋の南はツクシ、スギナが一面を覆っている。ツクシは久しぶりに見た。浮き橋から下町風俗資料館まではキッチンカーやテント、テーブル、イスが置かれ、すごい人込み。下町風俗資料館から北の方はこっとう市。

下町風俗資料館前の池の中の棒の上に、テラスの方を見ている小さめのアオサギが1羽。餌ねだり？と話しているうち、多数のユリカモメとドバトが近付いていく先に男性がいる。見ると、餌をやっている。餌を左手に持って鳥を寄せ、右手のスマホで写している。アオサギも近寄って来る。

池のそばは白砂(シロタエ)と書いた札が付いた白い八重桜が満開。その花の中にサッと鳥が飛び込む。下から見るとヒヨドリと思うが、やけに色が黒っぽい。シロタエの北にピンクの八重桜が咲き始める。

こっとう市が並ぶ所は、池のそばに寄れないので北上する。この辺のタイリョウザクラがどうなっているのかは見られない。東側には女性とサル1匹がいる。時間がくると芸を見せるらしい。

キクモモは枯枝だけ。タイリョウザクラは少し赤みを帯びた緑色の小さな実を付けている。

弁天堂参道の屋台店のうしろにはダンボール箱が幾つも重なっていて蓮池にも動物園池にも近寄れず。歩くのも大変な数の人、人、人。聞きなれない外国語が飛びかう。

橋の上でようやく、北も南も見える。今日の動物園は比較的すいていそう。弁天堂から藤棚へのスペースにも大きなテントと屋台店。藤棚に着いたところで、一応解散。途中で小雨が降ったのと、今日はこれから雨という予報だったので。

ムクドリ。藤棚から見ると東のアシ原の根元にコサギ。ジュズダマの葉はどの株も薄茶色のまま。下から緑の葉は出ていない。枯れた？枯らされた？濃いピンクのカラスノエンドウが咲く。シャガ。ヘビイチゴ。池の端に出っぱった枝に白い花のカジイチゴ。南にダイサギがいる。枯蓮の棒状の葉柄群の西端にオナガガモ雌1羽、雄2羽。西側にはオオバン2羽が泳ぐ。サル芸のタイコの音が聞こえる。柿は小さな葉が出てきている。弁天堂の周りのアシは相当に刈られたもよう。数少ないアシが70~80cmに伸びてきている。

弁天堂西にはハナモモが咲く。八重桜が少し咲き始める。以前常盤亭があったところは大きなテントが張られて、テーブル、ベンチが設置された屋台店に変わっている。動物園池側は、たぶんその為の大型の車が並んでいて、池のそばには行けない。橋の上から下を見ると、せきに冠羽有りの小さなコサギ。池の水が蓮池から動物園池の方へ流れている。桜の花びらも流れに乗って行く。

落羽松は小さな葉が出てきている。北上して西へ。ノゲシ、カラスノエンドウ、ムクドリ 10羽位

が一斉に飛び立つ。

薄黄緑色の花のウコンザクラが咲き始めている。ヘビイチゴ。

ウミネコがいる！1羽、いや2羽、アッまたふえた。全部で7羽になった。フェンス越しに見える動物園の中の濃いピンクの花。「ハナズオウ」とIさん。そうそうこの花の名前、教えてほしかったんだ！

千葉から初参加のSaさんが、「こんな目の前で水鳥が見られて、良いわね。三番瀬や谷津干潟ではこんな近くでは見られないものね」と。三番瀬で保護の運動を続けるFuさんは不忍池で初めて鳥を見て、関心をもったんだってよ、と伝える。本当に不忍池は目の前で鳥を見られる貴重な場所、大切にしたい場所。

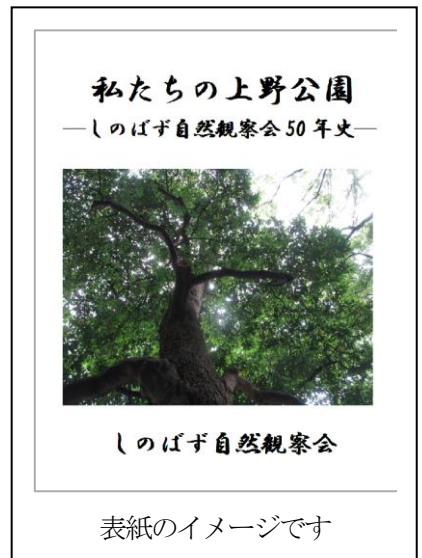


ウコン(鬱金)桜

しのばず自然観察会 50 年史の進捗状況

原稿も出そろい、掲載予定画像について、公共空間と公共物以外の被写体の管理者に、掲載の許諾を求めているところです。4月24日現在、5つの神社仏閣・事業体より了承を得ています。大型連休明けには、出版作業に移りたいと思っています。

なお、タイトルについて、これだと思うものがあれば急ぎお知らせください。現在は、仮題として、「私たちの上野公園—しのばず自然観察会 50 年史」としてあります。



象牙の国内市場閉鎖を求める署名、まだ間に合いますのでご協力を！

3月、4月の通信に同封させていただいた、国内象牙市場閉鎖を求める署名の締め切り(必着日)5月21日が近付いてきました。まだの方はぜひお力添えください。なお、趣旨等の説明文が読みにくいところがあり、共同提案団体である野生生物保全論研究会のスタッフがイラスト入りの解説を作りましたのでお届けします。

野生のゾウはアフリカ、アジアとも個体数が著しく減少しています。日本は長い間、象牙の消費国となってきました。象牙はゾウを殺さなければ入手できません。昨今は、象牙の国内市場を合法化している数少ない国になり、象牙の違法国際取引の温床ともなっているようです。ゾウは大型であり行動域が広いことから、その排泄物を通して、植物の種子を広域に散布する役割を果たし、生態系の維持に大きな貢献をしています。来年に予定される国内法「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(種の保存法)見直しに向けて、国内の議論を促進しましょう。送付先：〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-5-4 末広ビル 3 階 認定 NPO 法人トラ・ゾウ保護基金 国内象牙市場閉鎖に関する請願実行委員会宛